

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-12

## 小地域を基盤とした高齢者の社会参加活動を 促進するソーシャル・キャピタルの形成に関 する実証的研究

蘇, 曉娜 / SU, Xiaona

---

(発行年 / Year)

2024-03-24

(学位授与番号 / Degree Number)

32675甲第607号

(学位授与年月日 / Date of Granted)

2024-03-24

(学位名 / Degree Name)

博士(人間福祉)

(学位授与機関 / Degree Grantor)

法政大学 (Hosei University)

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030518>

2023 年度

指導教授 宮城孝教授  
副指導教授 伊藤正子教授

小地域を基盤とした高齢者の社会参加活動を促進する  
ソーシャル・キャピタルの形成に関する実証的研究

人間社会研究科

人間福祉専攻博士課程

蘇 曉 娜

# 目 次

## 第1章 研究の概要

### 第1節. 問題の所在と研究の目的

### 第2節. 研究方法

### 第3節. 用語定義

## 第2章 高齢者の社会的孤立の予防における社会参加活動およびソーシャル・

### キャピタルに関する先行研究および本研究の位置づけ

### 第1節. 高齢者の社会参加活動の現状と課題

### 第2節. 先行研究における高齢者の社会参加活動の規定要因

### 第3節. 地域における高齢者の社会参加活動とソーシャル・キャピタルに関する研究

### 第4節. 高齢者の社会参加活動が活発な地域の取り組みから見た環境的な促進要素

### 第5節. 本研究の位置づけ

## 第3章 ソーシャル・キャピタルの醸成における地域の文脈的要因に関する分析

### —松江市淞北台地区の歴史に着目して—

### 第1節. 調査の概要

### 第2節. 調査の結果

### 第3節. まとめと考察

## 第4章 高齢者の社会参加活動を促進する主観的認識に関する量的調査の分析

### 第1節. 量的分析の概要

### 第2節. 調査の結果

### 第3節. まとめと考察

## 第5章 高齢者の社会参加活動の促進要因に関する質的調査の分析

### 第1節. 質的分析の概要

### 第2節. 調査の結果

### 第3節. まとめと考察

## 第6章 総合的考察

—高齢者の社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルとは—

第1節. 研究全体の総括

第2節. 高齢者の社会的孤立を予防するためのソーシャル・キャピタルとは

第3節. 高齢者の社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルの普及に向けて

第4節. 本研究の意義と今後の課題

# 博士学位論文要約

論文題目:小地域を基盤とした高齢者の社会参加活動を促進する  
ソーシャル・キャピタルの形成に関する実証的研究

氏名:蘇曉娜

要約:

## 1. 研究の背景と目的

日本では総人口が減少している中、欧米諸国の約2倍のスピードで高齢化が進み、2022年には高齢化率は29.1%と推計されている。また独居高齢者の急増に伴い、2000年以降、高齢者問題の1つとして社会的孤立の問題が取り上げられ、孤独死・無縁社会などに関する報道が頻繁になされている。

内閣府の全国調査では、一人暮らしの60歳の者の5割が「孤独死を身近な問題と感じている」（高齢社会白書2021）との結果が示されている。社会関係やコミュニケーションの希薄化により社会的孤立に陥るリスクが高い高齢者がさらに増加することが危惧される。

社会参加活動の促進は、独居高齢者の孤独死の予防や介護予防などの効果が期待されているが、日本において、高齢者の社会参加活動の代表的なものとして、町内会や自治会単位に組織化され、活動している老人クラブの数や会員数などは、減少傾向が止まらない。また、市町村社会福祉協議会が全国的に推進している日中独居高齢者向けのふれあいいきいきサロンはほとんどの参加者が女性であり、健康へ関心を持っている高齢者や社会参加活動に積極的にされる高齢者しか参加できない状況にある。それは、地域における高齢者の社会参加活動の場としての限界性が明らかになってきていると言えよう。

超高齢社会となった日本において、高齢者が社会的に孤立することを防止し、社会参加に結びつけるためには、高齢者が居住する地域においていかに社会参加活動を活性化し、各高齢者にマッチした活動への参加を促進することができる社会的基盤を形成することが、改めて重要な課題であると言える。

そこで、本研究では、これまでの高齢者の社会参加に関するソーシャル・キャピタル機能が脆弱化していることを重要な社会的問題として認識した上、超高齢化が進んでいるにもかかわらず、趣味や生きがい活動など、長期にわたる高齢者の社会参加活動が活発に行われている島根県松江市湊北台地区に着目した。この地域では高齢者の社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルを、いかに小地域に形成させたのか、との問いかけから研究に着手した。

そして、この問いに対して、以下、第一に、この地域では高齢者の社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルの醸成に、地域のどのような歴史的、人為的要因などの文脈が関連しているのか、第二に、小地域における高齢者の社会参加活動を促進する環境的な要因としてソーシャル・キャピタルは、どのような特徴を持っているのか、第三に、これらの特徴は、高齢者の社会参加活動の促進と社会的孤立の予防にいかに関与しているのかについて、考察することを目的としている。

## 2. 本論文の構成と内容

本論文は、以下の通り、六つの章で構成されている。

### 第1章 研究の概要

第1節. 問題の所在と研究の目的

第2節. 研究方法

第3節. 用語定義

### 第2章 高齢者の社会的孤立の予防における社会参加活動及びソーシャル・

キャピタルに関する先行研究及び本研究の位置づけ

第1節. 高齢者の社会参加活動の現状と課題

第2節. 先行研究における高齢者の社会参加活動の規定要因

第3節. 地域における高齢者の社会参加活動とソーシャル・キャピタルに関する研究

第4節. 高齢者の社会参加活動が活発な地域の取り組みからみた環境的な促進要素

第5節. 本研究の位置づけ

### 第3章 ソーシャル・キャピタルの醸成における地域の文脈的要因に関する分析

—松江市淞北台地区の歴史に着目して—

第1節. 調査の概要

第2節. 調査の結果

第3節. まとめと考察

### 第4章 高齢者の社会参加活動を促進する主観的認識に関する量的調査の分析

第1節. 量的分析の概要

## 第2節. 調査の結果

## 第3節. まとめと考察

# 第5章 高齢者の社会参加活動の促進要因に関する質的調査の分析

## 第1節. 質的分析の概要

## 第2節. 調査の結果

## 第3節. まとめと考察

# 第6章 総合的考察

## —高齢者の社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルとは—

## 第1節. 研究全体の総括

## 第2節. 高齢者の社会的孤立を予防するためのソーシャル・キャピタルとは

## 第3節. 高齢者の社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルの普及に向けて

## 第4節. 本研究の意義と今後の課題

第1章では、高齢者が増加しているとともに、独居高齢者の急増と社会的孤立のリスクの拡大といった課題を言及した上で高齢者の社会参加活動の重要性を提出した。一方、従来の地域における高齢者の社会参加の場としての老人クラブの数や会員数が急激に減少し、高齢者の社会参加に関するソーシャル・キャピタル機能が脆弱化していることが重要な社会的問題となっていることを指摘し、本研究の問題意識の背景に対する理解を深めることを試みている。

第2章では、第1章であげていた本研究の問題意識の背景を踏まえ、高齢者の社会参加活動に関する政策の現状と課題および高齢者の社会参加活動に関する研究について、個人と地域的な環境との接点に焦点を当て、そのインタラクティブな視点から先行研究を概観している。

第3章では、先行研究の限界性を踏まえて、超高齢化が進んでいるにもかかわらず、趣味や生きがい活動など、長期にわたる高齢者が主体となったグループ活動などが活発に行われている島根県松江市淞北台地区に着目し、小地域における高齢者の社会参加活動を促進する環境的な要因としてソーシャル・キャピタルの形成過程には、どのような地域の文脈が関係するのかを明らかにするため、文献研究およびインタビュー調査を行った。

湊北台地区のソーシャル・キャピタルの醸成過程は、①【大渇水の危機によるつながりのはじまり】、②【共同事業による住民共同体意識の強まり】、③【地域の関係機関を巻き込んだネットワークへの拡大】の三つの発展段階に分けられる。

これらの経過を踏まえて、湊北台地区における歴史から形成されてきた構成員の行動規範と行動様式、構成員の認識および共通課題の解決に向けての取り組みなど人為的要因から高齢者の社会参加活動に関するソーシャル・キャピタルの醸成を考察している。

第4章では、小地域における高齢者の社会参加活動を促進する環境的な要因としてソーシャル・キャピタルは、どのような特徴をもっているのかを明らかにするため、活動の参加のしやすさや住民相互の関係性など、地域における参加を促進する環境的要因について因子分析を行った。その結果、【地域住民との協力による地域とのつながり】【地域活動への参加のしやすさ】【地域貢献への主体的な取り組み】【満足感や自己効力感の獲得】の4つの因子が抽出された。湊北台地区における高齢者の社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルの特徴として、【地域住民との協力による地域のつながり】という認知的なソーシャル・キャピタルの要素が確認された一方、構造的なソーシャル・キャピタルの特徴として【活動への参加のしやすさ】が挙げられた。これらは常に密接な関係を持っており、相互作用をしながら【地域貢献への主体的な取り組み】【満足感や自己効力感の実現】を促進しつつ個人の参加活動に寄与していることが確認された。

第5章では、環境的な要因がどのように高齢者の社会参加活動の促進と社会的孤立の予防に寄与しているのかを考察するために、湊北台地区におけるグループ活動に主体的に参加している高齢者14名に対してインタビュー調査を実施し分析を行った。社会参加活動の主体的な参加者である高齢者における参加動機ときっかけについて分析した結果、【自分なりの目的意識】【活動に参加したきっかけ】の2つのカテゴリーが抽出された。また、参加の継続要因として、【参加のしやすさ】【自分個人としての楽しみ】【強みを活かす】【ニーズが充足される】の4つのカテゴリーが抽出された。さらにカテゴリー間の影響の関係性を説明した。

参加する当事者である高齢者の有するストレス（強み）の活用を重要なポイントとして提示し、それと参加しやすい環境要因が相互作用して初めて、参加者の主体性が引き出され、参加促進につながることを示された。また、地域の協力を得て、高齢者個人の身体状態の維持向上（＜介護予防に役立つ＞＜安否確認に繋がる＞）や主観的幸福感の向上＜活動が楽しい＞＜成長ができる＞＜人の役に立つ喜び＞という意義をもつと同時に、高齢者が自力で活動参加を通して＜知り合いが増える＞ことで、社会的孤立の予防にも効果があることが明らかとなった。

第6章では、これらの調査結果を踏まえ、高齢者の社会的孤立の予防における社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルの有効性について考察を行っている。さらにこのようなソーシャル・キャピタルが他の地域への普及可能なポイントは何かについて考察を行っている。具体的には、①垂直的なつながりから水平的なつながりへ、②関心事から始まる、

課題への認識・啓発、③当事者の可能性・持つ力を引き出す、④役割およびきっかけを用意し、多くの人の出番を作る、⑤利用可能な外部関係機関のサポートを求める、⑥環境整備におけるコーディネート機能の充実の六つが挙げられた。

超高齢社会を迎えた日本において、地域における高齢者の社会参加活動がますます重要となっているが、老人クラブや地域サロンなど既存の高齢者の社会参加活動の限界性が顕在化している。

そのような中で、本研究の学術的・社会的意義の第一として、本研究は、社会参加活動が活発な地域のローカルな文脈に着目し、これまでの先行研究に見られた高齢者の個人的な要因だけでとらえるのではなく、高齢者にとって暮らしの場である小地域において、活動の参加しやすさや住民相互の関係性など、即ち地域における社会参加を促進するソーシャル・キャピタルの環境的要因を明らかにしたことにあると考える。高齢者の社会参加活動は、個人の意思と選択による要素によるところが大きいいため、一律に参加の促進を図ることは困難である。本研究は、その環境的要因について実証的な分析に基づいて分析・考察を行ったことで、今後の高齢者の地域における社会参加活動を促進する上で重要な示唆を提示することができたと考える。

また、第二の意義として、高齢者の社会参加活動の効果に関する先行研究では、参加した高齢者個人の身体状態の維持向上や主観的幸福感の向上といった研究が大半であったが、社会参加活動を通して作られた地域のソーシャル・キャピタルの形成が、地域における高齢者の社会的孤立の予防に有効に機能している点を明らかにしたことは、今後の高齢者の社会参加活動と社会的孤立の予防に新たな視点をもたらしたと考える。

本研究は、次のようにいくつかの限界がある。

まずは、研究の対象に関する限界である。限定された地域を調査対象としたため、その地域特性や対象とした高齢者の特性が影響していること、その点で他の地域との比較分析が必要であることがあげられる。例えば、量的調査では、岡本は、居住年数が5年未満と特に短い者が活動に至りにくいと指摘している。本研究の調査対象者は、居住年数10年以上の者が9割以上にもものぼり、その大半が団地建設当初から転入してきた者である。また、松江市の大湖水を住民が一致団結して乗り越えてきた共同体験など、その何十年に培ってきた地域特有の関係性が社会参加活動に多く影響していると考えられる。

松江市では、近年淞北台地区にならって、淞北台地区に近い成果をあげている地区も表れている。また、全国的にも同じような成果を上げている地域も散見される。今後は、このような地域における高齢者の社会参加活動を促進するソーシャル・キャピタルの分析を行い、その普及の可能性を検証する必要があると考える。

第二に、本研究は、社会参加活動を通して醸成されたソーシャル・キャピタルの地域における社会的孤立の予防への有効性について、民生委員、地域福祉推進員およびグループ活動の世話役及びグループ活動に主体的に参加している高齢者14名などへのインタビュー調査の内容を通して総合的に考察したが、地域における社会参加活動に積極性をもっていない

独居高齢者など社会的に孤立しやすい方へのインタビュー調査まで至ってなかった点は研究の限界性として付記したい。

今後の研究の方向として、まず、高齢者の社会参加活動が活発な先進地域として松江市湊北台地区のみならず、地域特性に配慮しながら研究の対象地域を広げ、本地域と異なる地域特性を有する地域における調査研究を視野に入れ、さらに検証を深めていきたい。

## 引用・参考文献(全章)

- 青木邦男 (2004) 「在宅高齢者の社会活動性に関連する要因の共分散構造分析」『社会福祉学』45(1), 23-34.
- 相田潤・近藤克則 (2011) 「健康の社会的決定要因 (10) ソーシャル・キャピタル」『日本公衆衛生雑誌』58(2), 129-132.
- Charles A. Rapp・Richard J. Goscha (2006) *The Strengths Model: Case Management With People with Psychiatric Disabilities*, 2nd ed. (=2008. 田中英樹監訳『ストレスングモデル—精神障害者のためのケースマネジメント』第2版 金剛出版.)
- Csikszentmihalyi, M. (2003) *Good Business: Leadership, Flow, and the Making of Meaning*, New York: Viking. (=2008、大森弘訳『フロー体験とグッドビジネス—仕事と生きがい』世界思想社.)
- 埴淵知哉・近藤克則・村田陽平・他 (2010) 「「健康な街」の条件—場所に着目した健康行動と社会関係資本の分析」『行動計量学』37(1), 53-67.
- 埴淵知哉・市田行信・平井寛・他 (2008) 『ソーシャル・キャピタルの潜在力』日本評論社 63-80.
- 埴淵知哉編 (2018) 『社会関係資本の地域分析』株式会社ナカニシヤ出版. 第1版.
- 久田邦明 (2012) 「コミュニティカフェへの期待」『公評』49(10), 20-27.
- 橋本修二・青木利恵・玉腰暁子・他 (1997) 「高齢者における社会活動状況の指標の開発」『日本公衆衛生雑誌』44(10), 760-768.
- 古川秀敏・国武和子・野口屋子 (2004) 「高齢者の抑うつ・孤独感の緩和と地域社会との交流」『老年社会科学』26(1), 85-91.
- 藤原佳典・西真理子・渡辺直紀・他 (2006) 「都市部高齢者による世代間交流型ヘルスプロモーションプログラム” REPRINITS” の1年間の歩みと短期的効果」『日本公衆衛生誌』53(9), 702-714.
- 藤澤由和・濱野強・小藪明生 (2007) 「地区単位のソーシャル・キャピタルが主観的健康感に及ぼす影響」『厚生指標』54(2), 18-23.
- 浜口晴彦 (1996) 『現代エイジング辞典』早稲田大学出版部.
- 福島忍 (2012) 「単身高齢者の地域活動・ボランティア活動への参加の促進に関する研究」『目白大学総合科学研究』8, 41-50.
- 平野美千代 (2011) 「日本の「高齢者の社会活動」：概念分析」『日本保健科学学会誌』14(3), 121-128.
- 林尊弘・近藤克則・山田実・他 (2014) 「転倒者が少ない地域はあるか—地域間格差と関連要因の検討—JAGES プロジェクト」『厚生指標』61, 1-7.
- 伊藤大介・近藤克則 (2013) 「要支援・介護認定率とソーシャル・キャピタル指標としての地域組織への参加割合の関連—JAGES プロジェクトによる介護保険者単位の分析」『社会

- 福祉学』54(2), 56-69.
- 稲葉陽二 (2005) 「ソーシャル・キャピタルの経済的含意—心の外部性とどう向き合うか」『計画行政』日本計画行政学会. 28(4), 17-22.
- 稲葉陽二 (2007) 『ソーシャル・キャピタル「信頼の絆」で解く現代経済・社会の諸課題』生産性出版.
- 稲葉陽二 (2008) 『ソーシャル・キャピタルの潜在力』日本評論社.
- 稲葉陽二 (2011) 『ソーシャル・キャピタルのフロンティア：その到達点と可能性』ミネルヴァ書房.
- 稲葉陽二 (2013) 『ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立：重層的予防策とソーシャルキャピタルビジネスへの展望』ミネルヴァ書房.
- 稲葉陽二 (2016) 『ソーシャル・キャピタルの世界—学術的有効性・政策的含意と統計解析手法の検証』ミネルヴァ書房.
- 稲葉陽二・藤原佳典 (2013) 『ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立—重層的予防策とソーシャルビジネスへの展望—』ミネルヴァ書房.
- 岩田正美・黒岩亮子 (2004) 「高齢者の「孤立」と「介護予防事業」(特集：住民主体の地域福祉政策)」『都市問題研究』56(9), 21-32.
- 市田行信・吉川郷主・平井寛・他 (2005) 「マルチレベル分析による高齢者の健康とソーシャル・キャピタルに関連する研究—知多半島 28 校区に居住する高齢者 9, 248 人のデータから—」『農村計画論文集』24, Special-Issue 号, 277-282.
- 石田潤 (2010) 「内発的動機づけ論としてのフロー理論の意義と課題」『兵庫大学人文論集』45, 39-47.
- Jacobs, J. (1961) *the Death and Life of Great American Cities*. Random House. (=黒川紀章約 (1969) 『アメリカ大都市の死と生』鹿島研究所出版社.
- 厚生労働省 (2018) 「「地域共生社会」の実現に向けた包括的な支援体制の整備等について」(<https://www.mhlw.go.jp/topics/2018/01/dl/tp0115-s01-01-04.pdf> 2022. 6. 10. 検索).
- 厚生労働省 (2017) 「地域における住民主体の課題解決力強化・相談支援体制のあり方に関する検討会 (地域力強化検討会)」の最終とりまとめ (<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000176885.html> 2022. 6. 11 検索).
- 厚生労働省 (2008) 「地域における「新たな支え合い」を求めて—住民と行政の協働による新しい福祉—」(<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/03/s0331-7a.html> 2022. 6. 検索).
- 厚生労働省 (2019) 「令和元年国民健康・栄養調査 社会活動の実施状況」(表番号 103). ([https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450171&tstat=000001041744&cycle=7&tclass1=000001148507&cycle\\_facet=tclass1&tclass2val=0](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450171&tstat=000001041744&cycle=7&tclass1=000001148507&cycle_facet=tclass1&tclass2val=0) 2023. 3 検索).

- 厚生労働省 (2008) 『これからの地域福祉のあり方の研究会報告書』  
(<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/03/s0331-7.html> 2022. 8. 検索) .
- 厚生労働省(2021) 「介護保険事業状況報告 (暫定) (令和3年1月分)」  
(<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/osirase/jigyo/m21/2101.html> 2022. 5. 19 検索) .
- 厚生労働省(2013) 「社会参加と介護予防効果の関係について」 .  
(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12600000-Seisakutoukatsukan/0000087538.pdf> 2022. 6 検索.)
- 厚生労働省(2021) 「高齢者雇用安定法改正の概要」  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/11600000/000694689.pdf> 2022. 6 検索.)
- 厚生労働省(2022) 「令和3年高齢者雇用状況等報告」  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/11703000/000715048.pdf> 2023. 6 検索.)
- 厚生労働省 「老人福祉法」(昭和38年07月11日法律第133号)  
([https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=82111000&dataType=0&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=82111000&dataType=0&pageNo=1). 2022. 5. 20. 検索.)
- 亀井美登里・本橋千恵美・太田晶子・他 (2021) 「高齢者の社会参加に関する研究 (地域包括ケアシステムの観点から)」『厚生指標』68(3). 43-50.
- 近藤克則 (2017) 『健康格差社会への処方箋』医学書院.
- 近藤克則 (2010) 「健康格差社会」を生き抜く. 東京都: 朝日新聞出版. 第1刷.
- 金貞任・新開省二・熊谷修・他 (2004) 「地域中高年者の社会参加の現状とその関連因—埼玉県鳩山町の調査から—」『日本公衆誌』51(5), 322-334.
- 健康長寿ネット 「シニア就労・社会参加の現状と課題—人生100年時代のサステイナブルな社会の構築に向けて—」(<https://www.tyojyu.or.jp/net/topics/tokushu/koreishashuro-shakaisanka/shiniashuro.html>2023. 6 検索.)
- 国立社会保障・人口問題研究所 (2019) 「日本の世帯数の将来推計 (都道府県別推計)」  
(<https://www.ipss.go.jp/pp-pjsetai/j/hpjp2019/yoshi/yoshi.pdf> 2022. 1. 10 検索.)
- 児玉善郎 (2014) 『地域とつながる集合住宅団地の支え合い—コミュニティ力ですすめる12の実践—』特定非営利活動法人全国コミュニティライフサポートセンター (CLC) 8-14.
- 小野寺紘平・斎藤美華 (2008) 「高齢男性の介護予防事業への参加のきっかけと自主的な地域活動への継続参加の要因に関する研究」『東北大学医学保健学科紀要』17(2), 107-116.
- 小林恵里香・藤原佳典・深谷太郎・他 (2011) 「孤立高齢者におけるソーシャルサポートの利用可能性と心理的健康—同居者の有無と性別による差異」『公衆衛生雑誌』58. 446-56.
- 神原理 (2011) 「ソーシャル・キャピタルの質的調査法」『社会関係資本研究論集』2. 81-

100.

- 川崎千恵(2018)「高齢者にとって地域活動に参加するということー離島の地域におけるエスノグラフィーー」日本公衆衛生看護学会誌 7(3), 110-118.
- 川島典子 (2020)『ソーシャル・キャピタルに着目した包括的支援ー結合型 SC の「町内会自治会」と橋渡し型 SC の「NPO」による介護予防と子育て支援ー』晃洋書房.
- 片桐恵子 (2012)『退職シニアと社会参加』財団法人. 東京大学出版社.
- 北須磨団地自治会「安全・安心を築くコミュニティカ」  
(<http://www.ashita.or.jp/publish/mm/mm99/mm99-2-2.htm> 2022. 8. 23 検索.)
- Linn. (2001)Social Capital: A Theory of Social Structure and Action, Cambridge University Press. (=筒井淳也・石田光規・桜井政成・他 (2008)『ソーシャル・キャピタル 社会構造と行為の理論』ミネルヴァ書房).
- 宮城孝 (2021)『住民力』明石書店.
- 松岡英子 (1992)「高齢者の社会参加とその関連要因」『老年社会学』14, 15-23.
- 松岡裕子 (2004)「後期高齢者のふれあい活動への参加経緯についてー住民主体の介護予防を通して」『訪問看護と介護』9(8), 614-618.
- 松江市淞北台自治会 (2000)『淞北台三十年の歩みー自治会三十年記念誌ー』.
- 松江市淞北台自治会 (2019)『淞北台五十周年記念誌ーこの 10 年の歩みを中心にー』.
- 松田晋哉・筒井由香・高島洋子 (1998)「地域高齢者の行きがい形成に関連する要因の重要度の分析」『日本公衆衛生雑誌』45(8), 704-712.
- 松本清明 (2019)「ソーシャル・キャピタル研究の現状と課題」『生老病死の行動科学』23. 45-59.
- 村山冴子 (1980)『『生きがいと創造の事業』に関する考察(1)事例研究』『関西学院大学社会学部紀要』41, 81-90.
- 村社卓 (2018)「高齢者の孤立予防を目的としたコミュニティカフェに参加する住民ボランティアの継続特性ーボランティアの「楽しさ」に焦点を当てた定性的データ分析ー」『社会福祉学』58(4), 32-45.
- 村社卓 (2012)「チームマネジメントの未活用要因および活用条件ーケアマネジメント実践におけるチームマネジメント概念の検討」『社会福祉学』53(2), 17-31.
- 村田千代栄・斎藤嘉孝・近藤克則・他 (2011)「地域在住高齢者における社会的サポートと抑うつとの関連ーAGES プロジェクト」『老年社会科学』33(1), 15-22.
- 内閣府 (2020)「令和 2 年版高齢社会白書」  
(<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/index.html>2022. 3. 1 検索) .
- 内閣府 (2013)「平成 25 年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査. 社会参加活動への考え方に関する事項」  
(<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h25/sougou/zentai/index.html>. 2022. 6. 6. 検

- 索) .
- 内閣府 (2021) 「令和 3 年度高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査結果 (全体版)  
([https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r03/zentai/pdf\\_index.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r03/zentai/pdf_index.html). 2022. 6. 20 検索.)
- 内閣府 (2021) 「令和 3 年版高齢社会白書 高齢期の暮らしの状況」  
([https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/html/zenbun/s1\\_2\\_4.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/html/zenbun/s1_2_4.html) 2022. 5 検索) .  
([https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/zenbun/pdf/1s3s\\_03.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/zenbun/pdf/1s3s_03.pdf) 2022. 3. 1 検索.)
- 内閣府 (2010) 「平成 22 年版高齢社会白書 社会的孤立に陥りやすい高齢者の特徴」  
(<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2010/zenbun/html/s1-3-1.html> 2023. 6. 7 検索.)
- 内閣府 (2015) 『高齢者の生活と意識-第八回国際比較調査結果報告』  
([https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h27/zentai/pdf/kourei\\_h27\\_2-7.pdf](https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h27/zentai/pdf/kourei_h27_2-7.pdf) 2021. 7 検索.)
- 内閣府 (2011) 「平成 23 年版高齢社会白書 子どもとの同居は減少し、諸外国と比べ別居している子との接触頻度が低い人が多い」 (<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/html/s1-2-1-02.html>) 2023. 6. 7 検索.)
- 内閣府経済社会総合研究所編 (2005) 「コミュニティの機能再生とソーシャル・キャピタルに関する調査研究報告書」(日本総合研究所委託事業)
- 内閣府国民生活局編 (2003) 『ソーシャル・キャピタルー豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』国立印刷局.
- 西智弘 (2020) 『社会的処方-孤立という病を地域のつながりで治す方法-』学芸出版社.
- 中川威 (2010) 「高齢期における心理的適応に関する諸理論」『生老病死の行動科学』 15. 31-39.
- 中島豊 (2005) 「ソーシャル・キャピタルと企業における人材活用」『NARA 政策研究』 41. 41-51.
- 仲村優一・岡村重夫・阿部志郎・他 (1989) 『現代社会福祉事典』. 全国社会福祉協議会. 廣済堂. 第 2 刷.
- 奥山正司 (1986) 「高齢者の社会参加とコミュニティづくり」『社会老年学』 24, 67-82.
- 岡本秀明・岡田進一・白澤政和 (2005) 「農村部における高齢者の社会活動と生活満足との関連ー社会活動に対する参加意向に着目して」『社会福祉学』 46(1), 63-73.
- 岡本秀明・岡田進一・白澤政和 (2006a) 「高齢者の社会活動における非活動要因の分析ー社会活動に対する参加意向に着目してー」『社会福祉学』 46(3), 48-61.
- 岡本秀明 (2006b) 「大都市居住高齢者の社会活動に関連する要因ー身体、心理、社会、環

- 境的要因から一」『公衆衛生誌』53(7), 504-514.
- 岡本秀明 (2008) 「高齢者の社会活動と生活満足度の関連—社会活動の4側面に着目した男女別の検討—」『日本公衆誌』55(6), 388-384.
- 岡本秀明 (2008) 「高齢者における社会活動の促進・阻害要因の検討—独居・要介護・在日韓国人高齢者へのインタビュー調査から—」『社会福祉学』48(4), 146-160.
- 岡本秀明 (2012) 「都市部在住高齢者の社会活動に関連する要因の検討—地域におけるつながりづくりと社会孤立の予防に向けて—」『社会福祉学』53(3), 3-17.
- 岡本秀明 (2013) 「高齢者の社会活動と開発された活動満足度尺度の得点との関連—「日頃の活動満足度尺度」と「社会活動に関連する過ごし方満足度尺度」—」『老年社会学』35(1), 3-14.
- 岡本秀明 (2014a) 「町内会・自治会活動、ボランティア活動、友人・近隣援助活動の関連要因とその主観的効果—地域福祉推進に関するインフォーマルな活動に関与する高齢者に着目して—」『日本の地域福祉』27(3), 55-67.
- 岡本秀明 (2014b) 「地域高齢者の社会活動研究における概念定義と測定および活動参加促進要因」『老年社会学』36(3), 346-354.
- 岡本秀明 (2015) 「都市部3地域の高齢者に共通する社会活動への参加に関連する要因—東京都区東部、千葉縣市川市、大阪市の調査研究から—」『和洋女子大学紀要』55, 135-147.
- Putnam, R. D. (1993) *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, Princeton University Press. (=2001, 河田潤一訳『哲学する民主主義—伝統と改革の市民の構造』) NTT出版.
- Putnam, R. D. (2000) *Bowing Alone: The Collapse and Revival of American Community*. (=2006, 柴内康文訳『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』) 柏書房.
- ソーシャル・キャピタルの構成要素に基づく事例分析  
(<https://www.city.kobe.lg.jp/documents/2175/sc-dai2-2syoun.pdf> 2022.7 検索).
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社, 33-114.
- 佐藤秀紀・佐藤秀一・山下弘二・他 (2001) 「地域在宅高齢者の社会活動に関連する要因」『厚生指標』48(11), 12-21.
- 佐藤秀紀・佐藤秀一・山下弘二・他 (2001) 「地域在宅高齢者の社会活動に関連する要因」『厚生指標』48(11), 12-21.
- 斎藤雅茂 (2018) 『高齢者の社会的孤立と地域福祉』明石書店, 初版第1刷.
- 坂本治也 (2002) 「ソーシャル・キャピタル概念の意義と問題点」第3回ソーシャル・キャピタル研究会.
- 四万十市ホームページ (<https://www.city.shimanto.lg.jp/soshiki/10/1052.html> 2022.7. 検索).

- 社会福祉法人北須磨保育センターホームページ (<http://www.kitasumahoiku-center.or.jp/kitasuma/04contents.htm>) 2022. 8. 23 検索.
- 庄司知恵子・佐藤嘉夫 (2015) 「高齢者の社会参加活動のあり方および参加促進に向けての考察—岩手県5市町村の調査より—」『岩手県立大学社会福祉学部紀要』17, 27-33.
- 須藤緑 (1998) 「高齢者の社会参加活動」『老年社会科学』10, 271-289.
- 蘇曉娜 (2022) 「ソーシャル・キャピタルの醸成における地域の文脈的要因に関する分析—松江市湊北台地区の歴史に着目して—」『法政大学大学院紀要』89, 185-197.
- 蘇曉娜 (2022) 「小地域における高齢者の社会参加活動への参加促進要因に関する研究—松江市湊北台地区のインフォーマルなグループ活動の世話役へのインタビュー調査を通して—」『日本の地域福祉』25-37.
- 蘇曉娜 (2023) 「小地域における高齢者の社会参加活動への参加促進要因についての研究—高齢者の社会参加活動の活発な地区における要因分析を通して—」『厚生指標』5, 32-40.
- 蘇珍伊・林曉淵・安壽山・岡田進一・白澤政和 (2004) 「大都市に居住している在宅高齢者の生きがいに関連する要因」『厚生指標』51, 113-116.
- 植村直子・畑下博世・金城八津子・他 (2003) 「高齢者が運動自主グループを立ち上げた背景と継続参加する要因—地域における自主グループ活動の意義—」『滋賀医科大学看護学ジャーナル』8(1), 22-25.
- 総務省統計局「高齢者の人口」(2020)  
(<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1261.html>2022. 5. 20 検索.)
- 総務省統計局「高齢者の人口」(2022)  
(<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1321.html>2023. 3. 10. 検索) .
- 総務省統計局「高齢者の人口」(2021)  
(<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1291.html> 2023. 6 検索) .
- 総務省統計局「労働力調査年報」  
(<https://www.stat.go.jp/data/roudou/report/index.html>2023. 6 検索) .
- 崔煌・権藤恭之・増井幸恵・他 (2021) 「高齢者における社会参加、ソーシャル・キャピタル、主観的幸福感の関連」『老年社会科学』43(1), 5-14.
- 湊北台いきいきライフを推進する会 (2015) 「15周年記念の集いしおり」.
- 湊北台いきいきライフを推進する会 (2021) 「20周年記念の集いしおり」.
- 柴崎雄悟・杉澤秀博 (2022) 「大都市における生活支援コーディネーターの地域づくりへの取り組みに関する質的研究」『老年学雑誌』12, 1-14.
- 高間由美子・杉原利治 (2003) 「高齢者の社会参加と生きがいに関する研究 高齢者の社会参加の現状と問題点」『東海女子短期大学紀要』29, 35-44.
- 竹田徳則・近藤克則・吉井清子・他 (2005) 「居宅高齢者の趣味生きがい—作業療法士による介護予防への手がかりとして」『総合リハビリテーション』33(5), 469-476.

- 田所聖志・夏原和美・田口貴久子・他（2016）「高齢者集落における社会的紐帯と健康状態の関連への文化人類学からのアプローチー秋田県牡鹿市A地区B集落での予備調査からー」『日本赤十字秋田看護大学紀要』21, 1-11.
- 東京都監察医務院で取り扱った自宅住居で亡くなった単身世帯の者の統計（平成20～23年  
(<https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansatsu/kodokushitoukei/kodokusitoukei20-23.html> 2023.3 検索) .
- 宇都宮すみ・小岡亜希子・陶山啓子（2019）「要支援高齢者の社会活動に関連する要因」『老年社会学』40(4), 393-402.
- 上野山裕士（2017）「小地域福祉活動の展開における新たなつながりの有用性ー中山間地域における住民生活の事例からー」『社会福祉学』57(4), 97-108.
- 渡邊節子（2016）「高齢男性の老人のクラブなどの交流活動への継続参加を可能とする要因」『癌と化学療法』43, 31-32.
- 渡部律子（2011）『高齢者援助における相談面接の理論と実際』東京:医歯薬出版 第2版. 52-53.
- 渡邊良太・辻大士・井出一茂・他（2021）「地域在住高齢者における社会参加割合変化」『厚生指標』68(3), 2-9.
- 安田節子（2007）「大都市近郊の団地における高齢者の人間関係量と地域参加」『老年社会学』28(4), 450-463.
- 山崎正和（2006）『現象としての社交. 松田陽三編. 社交する人間ーホモ・ソシアビリス』東京:中央公論新社. 18-27.
- 山城典子（2019）「地域在住後期高齢者の社会参加の継続要因ー社会ネットワークの側面からー」『日本の地域福祉』32, 63-76.
- 全国社会福祉協議会（2010）『全国ボランティア活動実態調査報告書』.
- 全国老人クラブ連合会 活動資料 (<http://zenrouren.com/siryu/index.html> 2022.1. 検索) .